



アクセス

- JR総武線「市ヶ谷駅」、徒歩約10分
- 東京メトロ「市ヶ谷駅」(有楽町線・南北線)、徒歩約10分
- 都営新宿線「市ヶ谷駅」、徒歩約10分
- 都営新宿線「曙橋駅」、徒歩約15分

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町9-13

採用ホームページ

<https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/csice.html>

内閣衛星情報センター

検索



内閣官房内閣情報調査室 内閣衛星情報センター

Cabinet Satellite Intelligence Center

採用案内 | 2025-2026



Cabinet Satellite Intelligence Center

EYES IN SPACE,
SECURING FUTURE

所長メッセージ

静かな情熱と使命感を胸に、
我が国の未来を支える仕事に挑んでみませんか



内閣衛星情報センターに関心を寄せていただきありがとうございます。

当センターは、政府の情報収集活動を支える衛星画像情報の専門機関として2001年に発足しました。人工衛星などを活用した情報の収集、分析を通じて、我が国の安全保障や外交、自然災害への対応等に貢献しています。表に出ることの少ない業務ですが、国家の意思決定を支える極めて重要な役割を果たしています。

私たちが求めているのは高い倫理観と強い責任感を持ち、情報という目に見えない価値に対し冷静かつ柔軟に対応できる人材です。衛星システムの開発や画像処理、分析等の専門的な技術は入ってからじっくりと習得できます。新しいことに積極的にチャレンジする気概とともに誠実に学び続ける姿勢を持った皆さんの力を必要としています。

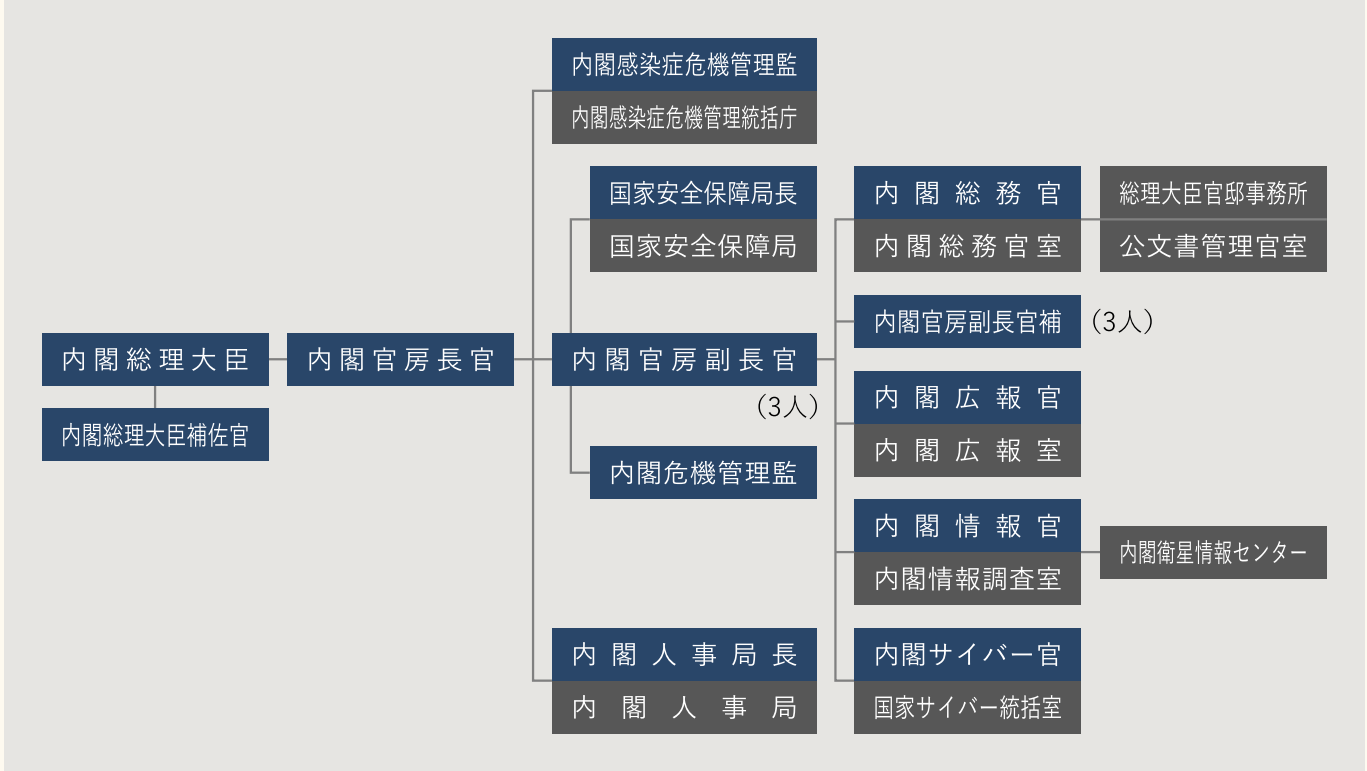
静かな情熱と使命感を胸に、我が国の未来を支える仕事に挑んでみませんか。皆さんと一緒に働ける日を、心より楽しみにしています。

内閣衛星情報センター所長
尾崎 義典
OZAKI Yoshinori

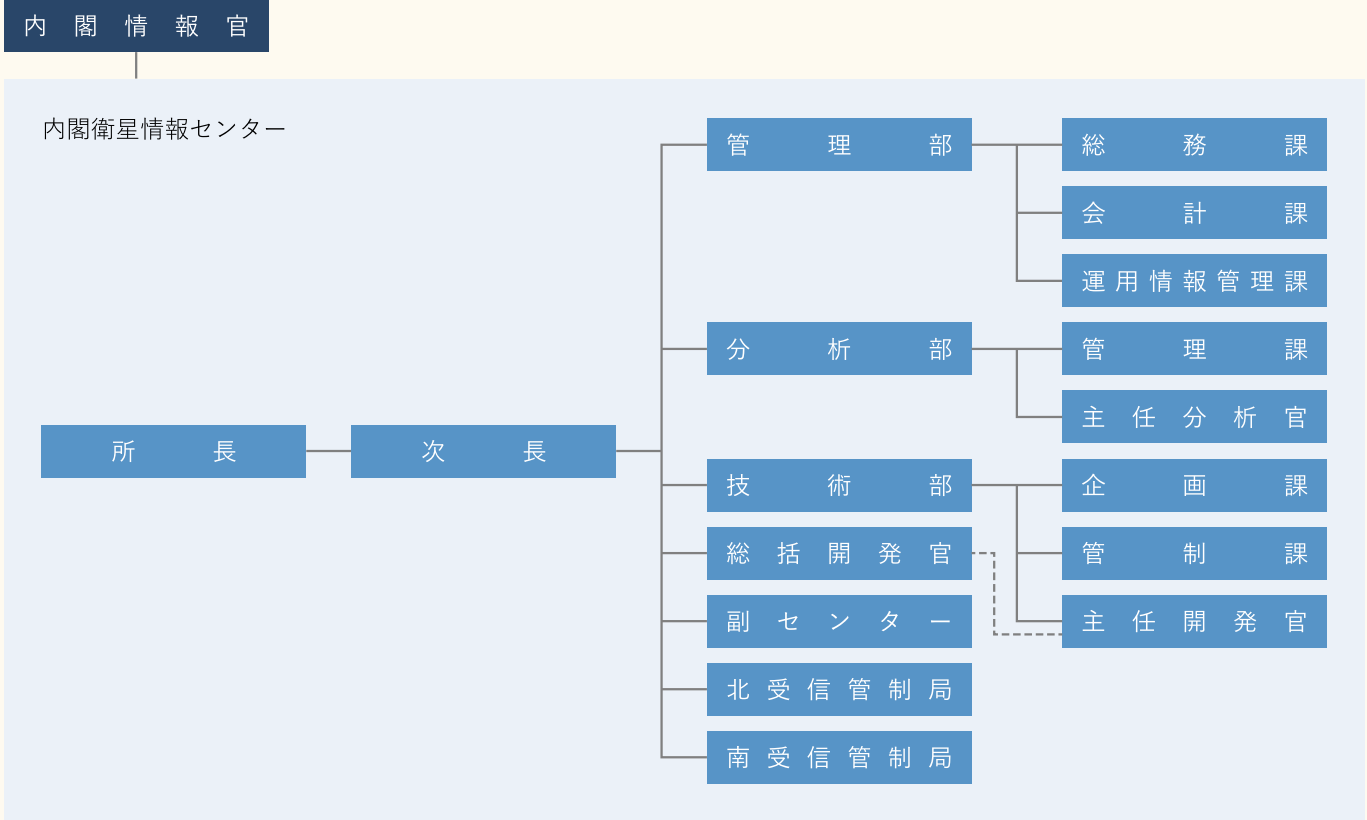
組織

内閣衛星情報センターは、内閣情報官直下の組織として内閣官房内閣情報調査室に置かれており、我が国の安全の確保、大規模災害への対応に関する画像情報の収集・分析・情報収集衛星システムの開発・運用に関することを任務としています。

内閣官房の組織体制



内閣衛星情報センターの組織体制



業務内容

管理部

総務・会計・予算・国会対応のほか、
撮像計画作成までを行う。

内閣衛星情報センター全体の業務が円滑に行われるよう内外の関係機関と連絡調整を行っていくことが主な業務です。例えば、情報収集衛星の運用や開発についての政策や計画を他の政府機関と相談しながら立案したり、国会審議の対応や国会議員への説明を行ったり、日本国民に対して情報収集衛星が果たしている役割の理解を深める取組を進めたりしています。

また、内外のニーズを踏まえて、情報収集衛星の性能を最大限活用し、どの地点を、どのように撮像するか計画(撮像計画)を日々作成しています。

技術部

開発・打上げ・管制・管理のほか、
最新の技術動向を調査する。

情報収集衛星システムの開発、情報収集衛星の打上げ、衛星及び地上システムの管制・管理が主な業務です。

開発業務は、運用上の問題点や要望、最新の技術動向を踏まえた衛星及び地上システムの仕様と設計を検討し、その結果をもとに関係機関や企業と調整しながら推進しています。

開発した衛星は、関係機関や企業と協力して打ち上げます。衛星及び地上システムは、機能が問題なく発揮されているかを常にチェックしています。また、運用中も性能の維持向上の取り組みを続けています。

情報収集衛星システム開発業務

内閣衛星情報センターでは情報収集業務だけでなく、
情報収集衛星システムの開発※も独自に行っています。
情報収集衛星システムは、衛星システムと地上システム
に分類されます。
情報収集衛星は衛星システムとして開発し、撮像計画の
作成や衛星との通信、画像処理等を行うシステムは地上
システムとして開発しています。
情報収集業務を支えるために、各省庁等を含め業務サイ
クルに関わる職員のニーズを踏まえた開発を的確に行
い、運用しやすい情報収集衛星システムを構築するこ
とが求められます。

※内閣衛星情報センターにおける開発業務とは、情報収集衛星シ
ステムの開発業者の選定やそれに必要な開発機関との調整、開
発管理業務を指します。
衛星を実際に設計したり製作するといった専門的な業務は開発
業者が行います。
開発管理業務とは、最新の技術情報や情報収集業務及び各種
ニーズから、今後必要となる情報収集衛星の性能等の仕様を決
定するとともに、システムの開発状況を管理することです。
具体的には以下の業務です。

●開発予算の作成
●最新技術の動向調査
●運用者のニーズ調査
●開発スケジュールの進捗管理

分析部

衛星画像を判読・分析し、報告書
を作成する。

情報収集衛星により入手した画像の判読・分析と報告書の作成が主な業務です。

安全保障関連や大規模災害等の危機管理事案が発生した際は、いち早く情報収集・判読・分析を行い、関係機関に提供しています。また、普段から衛星画像や公開情報を収集し、各地の情勢を観察する等、緊急事態が発生しても速やかに情報の収集・分析にとりかかれる態勢を整えています。

このほか、判読・分析を行う分析官の能力を高めるための判読・分析に関する教育や、判読・分析を円滑・効果的に
行うための調査研究も行っています。

副センター、北・南受信管制局

中央センターのバックアップ機能を
有し、衛星との通信を行う。

副センター及び北・南受信管制局には、情報収集衛星とデータを相互に通信するためのアンテナが設置されており、アンテナはレドーム(外殻)に囲われています。このアンテナを通じて情報収集衛星の管制や状態の確認を行ったり、アンテナ自体の維持管理を行っています。

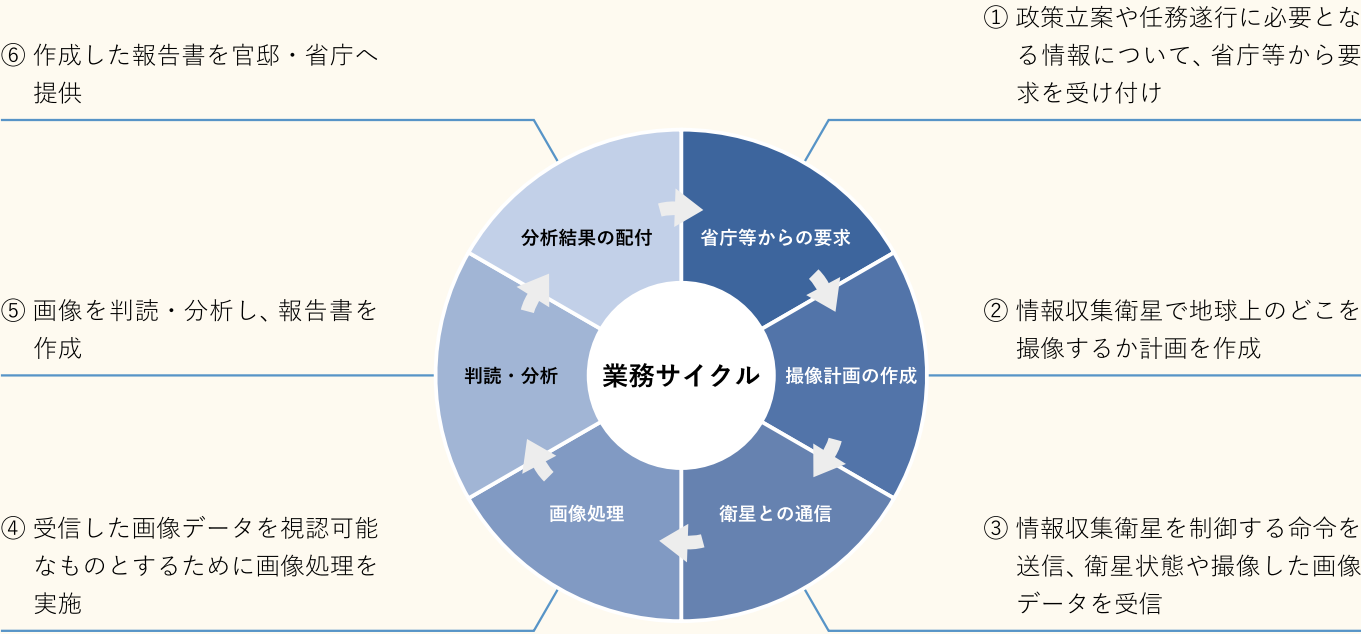
なお、副センターは中央センターのバックアップ機能を有しているため、受信管制業務だけでなく、撮像計画の作成、画像処理、画像の判読・分析といった、中央センターで行う業務も可能なほか、情報収集衛星システムの開発に係わる試験施設としての役割を有しています。

業務サイクル・拠点

情報収集業務

情報収集衛星を用いた情報収集の業務は、図のサイクルで行います。

このサイクルは、省庁等からの要求、撮像計画の作成、衛星との通信、画像処理、判読・分析、分析結果の配付の順に循環しています。



拠点

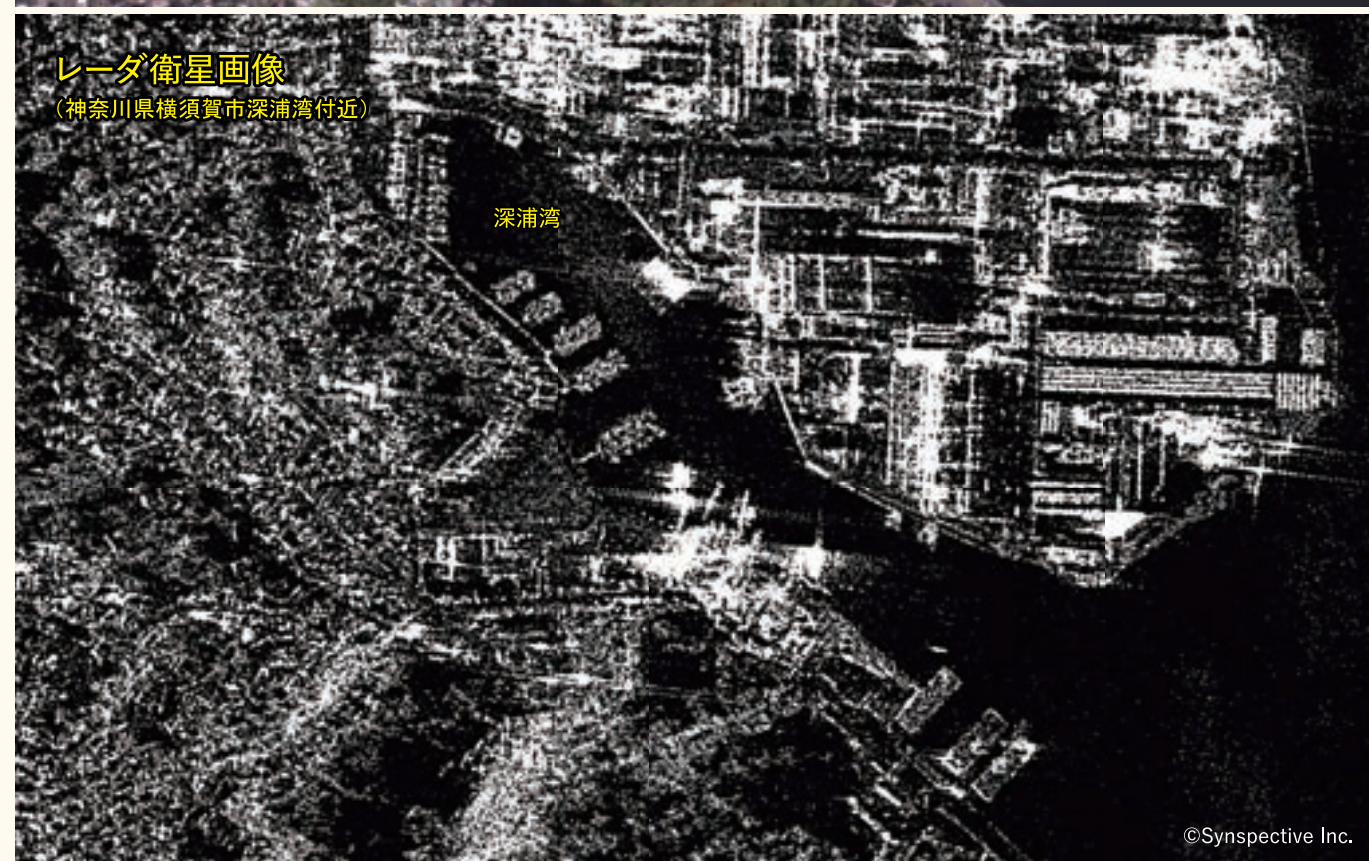


中央センター※、副センター及び北・南受信管制局のいずれかで勤務することとなります。

※中央センターは東京都新宿区に所在し、所長、次長、管理部、分析部、技術部及び総括開発官が置かれています。

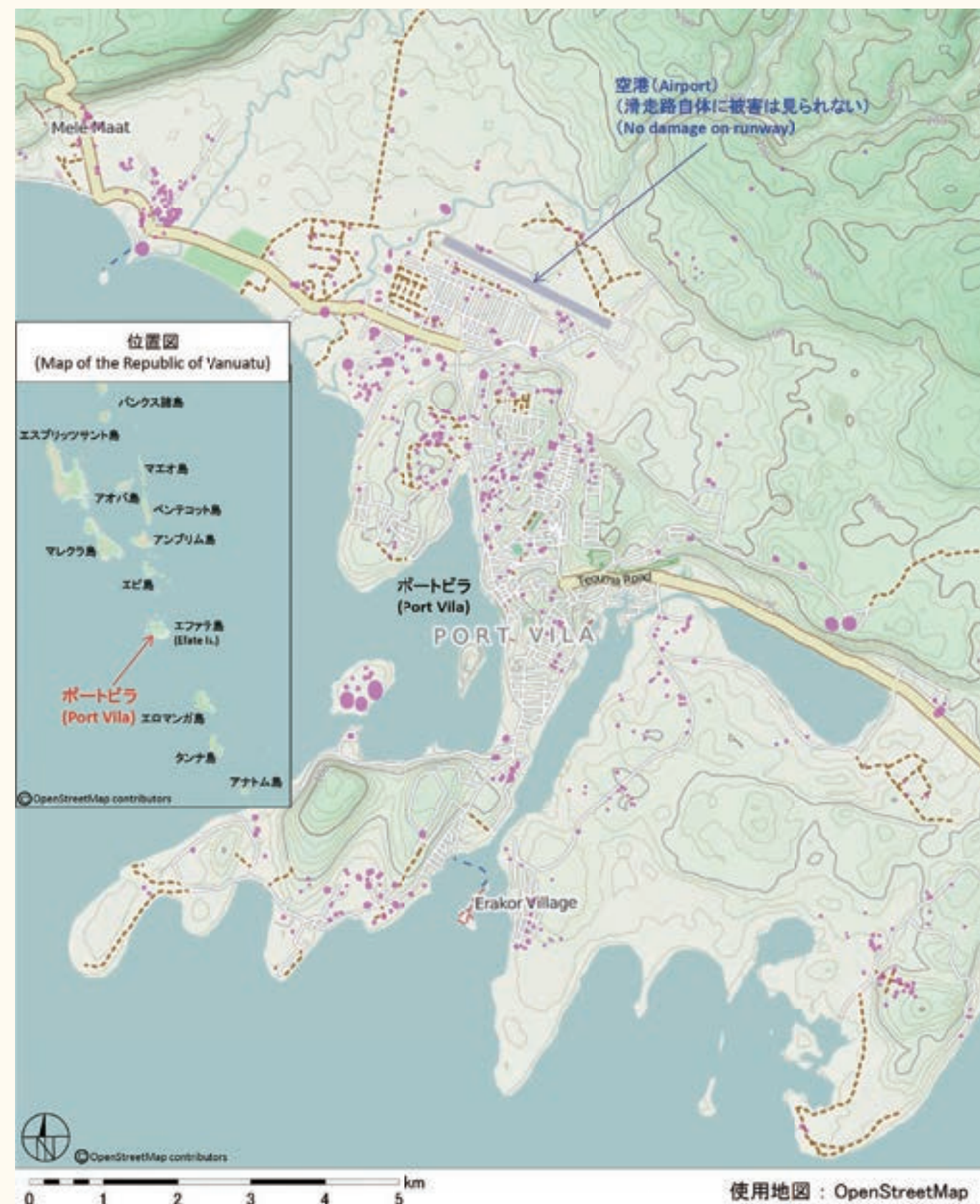
商用衛星画像

情報収集衛星は、昼夜を問わず世界中のあらゆる場所を高い分解能で撮像できる能力を持っています。
 日中は光学衛星及びレーダ衛星が、夜間や天候が悪い場合はレーダ衛星が主に活躍しています。
 ここでは、参考として民間の高分解能衛星画像をお示ししています。



情報収集衛星画像の判読例

情報収集衛星画像を判読して得られた被災状況を地図にプロットした被災状況推定地図(桃色部分は被災箇所)をお示しします。
 平成27年3月のバヌアツ共和国におけるサイクロン被災状況について、情報収集衛星によって必要な情報を収集し、関係省庁に提供した内容です。
 このように地図に画像判読結果を重ねることにより、より被災状況の可視化ができ状況把握に役立てることができます。



加工処理画像の公開

国内で大きな災害や事故が発生した際には、自治体や国民の皆様へ情報を提供するため、情報収集衛星で撮像した画像を加工して公開しています。平成27年9月以来、大規模な洪水や火山噴火、地震等の災害で画像を公開しています。



職員に聞きました（行政系職員）

内閣衛星情報センターは、令和8年度より国家公務員一般職(行政区分)からの採用を再開しました。
行政系職員として、当センターの様々なフィールドで活躍する職員の声をお届けします。



Kさん(技術部)
【令和3年採用】



Tさん(分析部)
【平成31年採用】



Fさん(管理部)
【平成30年採用】

1

現在担当している仕事の内容とやりがいを教えてください。

2

行政系職員として印象に残った出来事を教えてください。

Kさん

現在は技術部内の予算管理と、打上げ用ロケットの調達契約を担当しています。技術部では、画像の撮像に必要不可欠な衛星の開発及び運用を支える大きな予算を持っており、その管理を任せていただいている現在の業務は、センターの情報収集、分析業務を陰ながらサポートすることができる業務であると感じており、非常にやりがいを感じています。

現在担当しているロケットの調達契約では、情報収集衛星を打ち上げるためのH3ロケットの契約に係る調整を行っています。センターの行政系職員としての対応内容は契約調整等になりますが、契約に係る打合せの中では技術的な背景を踏まえた調整が必要な場面も多くあり、宇宙分野の最前線に携わっている実感がありセンターならではの業務として非常に印象に残っています。

Tさん

分析部で特定国を対象とした画像分析を担当しています。情報収集衛星による画像情報によって公開情報では得がたい最新の動向等を把握できる点、画像情報を元にしてカスタマーたる情報コミュニティ省庁に政策検討の資となるプロダクトを提供する任務を帯びている点にやりがいを感じています。

技術的素養がなかったことから、情報収集衛星の打上げにかかる資料の内容を上司に諮る前に、知見のある方々に度々教を請うていたことが思い出されます。

Fさん

私は現在、契約業務を担当しています。契約を所管する部署と連携しつつ契約相手方から見積書を徴収して内容を確認して商議し、契約を締結することと、契約した業務が終了した後に契約相手方から報告される実績に妥当性があるか監査することが主な業務です。衛星開発に係る知識は見積書や実績報告を読む上でも重要で、常に知識をアップデートしていくことができるところにやりがいを感じます。

ロケット打上げに関する業務をしたことです。対外対応や調整など業務量は多くありましたが、無事にロケットが打ち上げられた様子を見て、このように形に残る業務に携われたことに誇りを感じました。

3

センターの職場の雰囲気を教えてください。

4

行政区分でセンターを目指す方へメッセージをお願いします。

Kさん

センターでは様々なバックグラウンドを持つ方が同じ職場、部署で働いているため、多様性の職場という言葉がぴったりだと思います。現在所属している技術部は他省庁や関連企業等から出向で来ている方も多く所属しており、それぞれの幅広い専門分野を活かして業務を進めているという印象です。

衛星センターは行政区分の試験で入庁した方でも、宇宙分野で働くことができる貴重な職場であると感じています。行政区分での入庁は技術的な知識に関して不安な点もあるかと思いますが、入庁してからの技術的な研修も充実しており、また、宇宙分野でのバックグラウンドを持つ出向者の方から、業務を通して知識を学ぶことができる機会も非常に多いです。宇宙分野に興味がある方はぜひチャレンジしていただければと思います。

Tさん

様々な省庁等からの出向者等が職員の多くを占めており、多様性に富んだ職場環境ですので、相手を尊重するという意識は職員全員に共有されているのではないかと感じます。

行政区分で採用された場合でも、情報収集衛星システムや地上システムを語る上で、技術的な用語や知識への理解はある程度要求されますが、はじめから深い理解がある必要はなく、職務に就いてから徐々に理解していけば問題ありません。官庁訪問時にはご自身の専攻分野を自信をもって語り、熱意をアピールしていただければと思います！

Fさん

出向で衛星センターに来ている職員からは「親元よりも雰囲気がよい」と言われることが多いです。出向者が多い組織だからこそ、助け合いの精神が強いように思います。知識を豊富に持つ職員がたくさんおり、わからないことがあれば教えてもらえます。

衛星センターの業務を難しそうに感じられた方もおられるかと思いますが、衛星や宇宙技術に関する知識が全くない状態でも問題ありません。ご自身が学生生活で身に着けた強みを活かせる場所が衛星センターには必ずあります。皆様とご一緒にお仕事できる日を楽しみにしております。

職員に聞きました（技術系職員）

採用2年目職員



Aさん(技術部)
【デジタル・電気・電子区分】

1 志望動機は？

合同説明会で印象的な組織名に惹かれて興味を持ちました。説明会に参加した際に「衛星センターは衛星画像という『生の情報』に触れられる唯一の機関」という言葉に魅力を感じ、衛星を使った情報の収集及び分析の業務に携わりたいと考え、志望しました。

2 現在の仕事は？

技術部に所属し、将来の衛星やそれを扱うシステムに搭載する機器や技術の研究開発を取りまとめています。研究自体は外部機関に委託しているため実際に手を動かし研究をする訳ではなく、外部機関との契約調整や定例報告での進捗確認を担当しています。

3 センターの魅力は？

衛星の運用から画像の分析まであらゆる作業を自分の手で行える、国内でも唯一無二の機関だと思います。また、衛星やロケット開発に関わっている方も在籍しており、色々な話を聞くことができます。特に宇宙分野に関心がある方は刺激のある毎日を送ることができます！

4 皆さんへのメッセージをお願いします

まずは自分自身について振り返ることで、自分が何をしたいか、どんな業務に向いているのかが見えてくると思います。自己分析をして他省庁への説明会にも参加し、ご自身に合った職場を探してみてください。その上で衛星センターを選んでいただくと非常に嬉しいです！



Oさん(管理部)
【機械区分】

古くから航空宇宙分野、特に人工衛星に興味があり、機械工学を専攻していました。当初は衛星の設計やものづくりを目指して学習していましたが、日本国内の災害の多発、世界的な国際情勢の変化など様々な問題が発生している中で衛星の開発だけでなくその先の運営に携わりたいと考えるようになり、内閣衛星情報センターを志望しました。

昨年度まで撮像計画の作成を行っていました。撮像計画とは、情報収集衛星がどの地点をどのように撮像するか計画です。今年度からは撮像計画を行う上で使用しているシステムの不具合対応や、将来システムの開発支援などを行っています。運用者の業務がより円滑かつ効率的に行えるように日々業務を行っています。

政府機関のための唯一無二の情報収集衛星を管理し、運営することは当センターでしか味わえないものです。日々知らなかった知識に触れることが出来るため、業務と平行して学習出来る当センターは非常に魅力的な環境だと感じています。

内閣衛星情報センターに興味を持っていただきありがとうございます。宇宙開発の競争が激化していく中で、当センターも今以上に、新しい知見と専門性を持った方々が必要になると考えています。元の採用区分に関わらず、インテリジェンスや情報収集衛星に興味を持った方がいらっしゃいましたら、是非受験していただきたいです。



Nさん(技術部)
【デジタル・電気・電子区分】

自然災害が発生した際に撮影し、情報提供を行っていることを知り興味を持ちました。それと同時に、ロシアのウクライナ侵攻のニュース等で衛星画像が使用されていることを知り、衛星画像の分析に興味を持ち志望しました。

技術部に所属しており、衛星の機能が問題ないか、故障の兆候はないかの確認を日々行っています。また、より詳細な調査等は開発業者に依頼して行ってもらうため、開発者と結ぶ契約についての業務も行っています。

衛星の開発から運用、判読・分析まで行っている唯一無二の機関であり、「政府の重要施策の決定に貢献する」という任務に直接貢献できる分析業務とそれを技術的・事務的な面から支える業務の両方を経験することができます。業務の特性上、センター以外の人に自分の仕事の話をすることはできませんが、微かな情報に接する機会があることは魅力だと思います。

宇宙業界は敷居が高いように感じることもあるかと思いますが、センターには研修等があり必要な知識を得られる機会があるため現時点で知識がなくても問題ありません。興味がありましたら、気軽に説明会に参加してみてください。



Kさん(分析部)
【土木区分】

学生時代に地理空間情報に係わる研究に従事した経験から、衛星画像を用いた分析業務に魅力を感じました。加えて、国際関係に興味があり、安全保障の分野に携わりたと思ったため志望しました。

分析部に所属し、判読分析に関するシステムの保守管理から開発の調整及び分析官による分析業務の技術支援に従事しております。

行政らしい業務からシステム開発等の技術的な業務まで、幅広い分野の業務に携わることができるところがセンターの魅力と感じております。

特にセンターは、業務そのものも職員の経歴も多様なため、ご自身の専門分野に囚われず好奇心の赴くままにチャレンジしてみてください。



Yさん(副センター)
【機械区分】

大学生時代、航空宇宙を専攻していたため自身の関心のある分野であり、複数の衛星を運用し安全保障や自然災害に役立てていることに魅力を感じ、志望しました。

現在、副センター(茨城県行方市)で、衛星から送信されるデータをアンテナで正常に受信できているかを確認し、設備の維持管理を行っています。昼間だけでなく、夜間もデータを受信するため、夜間業務を行う日もあります。夜間業務を行う前後でしっかりと休息を取る時間があるので、体調を崩すことはほとんどないです。シフト制で土日祝日に業務を行うこともあります。人が空いている平日の時間帯に休暇を過ごすこともできます。

衛星の開発・運用、受信管制局運用等の特殊な業務や、部署によっては若手からベテランまで幅広い世代が幹部へ説明に上がるような業務、衛星の打上げ時には現地での立会い等の打上げに関する業務に携わる機会があり、貴重な体験ができることだと思います。また、当センター職員には、他省庁や民間企業からの出向者もあり、各組織の特色や文化を知る機会があることも魅力の一つだと思います。

当センターの説明会を聞くまで、当センターを知る機会はなく、入庁後は具体的な業務内容については予備知識がほとんどない状態で業務に携わっていましたが、基礎研修に加え、関係企業に訪問し直接工場へ足を踏み入れ説明をしていただく研修を通じて、組織への理解を深める機会があるので、入庁前に具体的な業務へのイメージが湧かなくても大丈夫だと思います。当センターへ興味をお持ちの方は気軽に説明会に参加してみてください。



Iさん(管理部)
【土木区分】

公務員に絞って就職活動をする中で、大学で防災について学んでいたので防災業務について携わること、小さい頃から宇宙について興味があること、この二つの自分が希望したことを仕事にできる場所なのではないかと思い志望しました。

所属している課の取りまとめ担当として、課の窓口業務や行政官としての業務を担当しています。また、日本で起きた自然災害に対して、衛星で撮像した画像に画素結合を行い公開する、加工処理画像についても携わっており、数少ない国民に衛星センターの業務を伝える機会があります。

センターは様々なバックグラウンドをお持ちの方がたくさんいらっしゃる。ので、様々な知識や考え方を知ることができ、その貴重な情報を吸収することができる場所です。センターの未来に関わる会議に一年目から参加することができ、自分自身様々な考え方を学ぶことができました。

センターには様々な業務がありますので、一見すると関係なさそうな知識を使用する機会が多くあると感じますし、今まで学んだ知識を全て活かせる職場だと思いますので、このパンフレットを手にした方は是非志望してみてください。



Fさん(分析部)
【物理区分】

宇宙分野から安全保障に関わることができるところに興味を引かれました。

分析官が判読分析業務をより効率的に行うことを可能にする技術の調査研究開発、分析官の要望を将来の衛星システムや今後の技術に反映させるための調整業務を行っています。

衛星の開発から運用、分析まで幅広い業務を行っているところが魅力です。技術、社会科学等様々な知識に触れながら日々の業務を行うことができるため、学び続けることが好きな方には最高の環境です。また、衛星の打上げなどセンターならではの業務もあります。

学生時代に経験したことや自ら興味を持って学んだことは全て業務の中で生かされていると思います。皆さんもぜひ、興味を持ったものには積極的に挑戦してみると良いと思います。

ベテラン職員



Tさん(分析部)
【平成13年選考採用】

1 仕事から得られた達成感とは？

私はこれまで衛星や地上システムの研究・開発業務等を経験し、現在は分析業務を担当しています。衛星の打上成功や自分が関わった研究開発の成果が実利用に至った際にも一定の達成感がありますが、その頃には既に次のプロジェクトに意識が向いて

いる事の方が多いため、むしろ、新規事業に予算がつき、Goがかかり、いざキックオフという場面に至った立ち上げタイミングの方が、より安堵感や達成感を味わっている気がします。

2 職員に求められる能力は？

仕事の優先順位付けやスケジュール管理がしっかりできる能力が大事だと思います。自分の能力や知識を踏まえ、締め切りから逆算して何時までに何をするのか、誰かにフォローを依頼する・しないの判断、する場合のデッドライン等を初めに考える癖をつけておくと、大失敗する事はない

と思います。慣れないうちや相場感が掴めない業務の場合は、最初から精度高く見積る事は難しいですが、進捗に応じて修正して行けば何とかなります。



Yさん(技術部)
【平成13年選考採用】

私はこれまで情報収集衛星システムの開発業務と管制運用業務を中心に経験してきました。開発業務においては、センター内の他部門や開発機関、開発企業との調整に苦労しましたが、自分が担当した衛星が種子島宇宙センターから無事に打ち上がり、

画像が分析部から高い評価を得られた時の達成感は大きいものでありました。

センターでの業務は多くの分野があり、採用後、様々な分野を経験しながら自分の専門分野を見つけていくことになります。全ての分野はセンターの業務を進めていく上で必要不可欠なものであり、密接に関連しているため、過去の担当業務での知識や経験を現在の担当業務に活かして

いけるような幅広い視野を持つことが大切になると思います。

ワーク・ライフ・バランス

内閣衛星情報センターでは、仕事と生活を両立させるために様々な両立支援制度があります。
ここでは、持続可能な働き方の例として、育児休業を取得した職員へのインタビューを掲載しております。



Yさん(技術部)(男性)
【平成28年採用】

Q1 育児休業取得に不安はありましたか？

私は1歳10ヶ月の息子がいます。子供が生まれるにあたり育児休暇を取得しました。男性職員の育休への理解が十分に広まっていないとのニュースは良く聞いており「当方の職場で認められるのか？」「1ヶ月以上も職場を離れて大丈夫か？」といった不安はありましたが、出産後の妻のサポートは非常に重要であり、出産後に休暇を取れるかが将来の夫婦関係を決定づけるなど、上司や先輩職員から背中を押してもらいました。

Q2 職場の反応はどうでしたか？

ベテラン職員の方に話を聞くと、昔は男性で育休を月単位でとるような事例があまりなかったらしいのですが、今はほぼ全ての職員が1ヶ月以上の育休を取得しており、男性の育児参加が浸透してきていると感じます。

また、センターに限った話ではないと思いますが、国家公務員全体として男性の育児参加への理解やそれを支援する制度が向上されていることから、仕事との両立はやりやすくなっていると思います。

Q3 夫婦共働きということですが、分担はどうされていますか？

日中は息子を保育園に預けてます。保育園へ連れて行くのは私が行き、迎えは妻が担当することで子育ての負担が片方によることがないよう努めています。子供の発熱によって突発休が避けられないことがあるのですが、自身が一人で担当する業務を可能な限り無くし、休暇中に動きがあっても他の職員がフォローできるよう情報共有を常に意識しております。

Q1 育児休業等を取得した感想は？

私は昨年秋に出産、産後休暇・育児休業を取得後、子どもが生後6か月になったタイミングで復帰し、フルタイムで働いています。我が家は夫も国家公務員のため、夫婦で各種制度を利用しており、共に実家が遠方で頼れない私たち夫婦は非常に助かっています。

Q2 夫婦共働きということですが、分担はどうされていますか？

例えば保育時間を朝は夫、夕方に私が取得し、保育園の送り迎えを分担しています。私が繁忙期の際は、夫が保育園に子どもを迎えに行き、私が残業するなど臨機応変に対応しています。子どもが体調を崩した際は仕事の状況に合わせて夫か私のどちらかが子の看護休暇を取得し、対応しています。その他、昼休みを15分短縮することで、退庁時間を少し前倒ししています。

Q3 周囲のサポートはどうですか

仕事と育児の両立は不安でしたが、上司や周囲の理解もあり、復帰直後は業務量を軽減、徐々に業務量を増やし、仕事と育児の両立に慣れていきました。子どもの体調不良等で急に休むこともありますが、上司や同僚からは私の体調も含めて心配いただき、恵まれた職場環境に感謝しています。

Q4 リフレッシュはどのようにされていますか？

週に1回程度、昼休みに子育て中の職員とランチをしながら子育ての相談をしたり、世間話をする事で良いリフレッシュになっています。
仕事で子どもと離れるのは寂しいですが、保育園に迎えに行くと楽しそうに遊んでいる姿を見て成長を感じます。日々時間に追われていますが、子どもの可愛さに癒やされながら充実した毎日を過ごしています。



Tさん(技術部)(女性)
【平成31年採用】

主な両立支援制度

産休制度(女性職員)

産前・産後休暇 産前6週間、産後8週間の期間に取得

「男の産休」制度(男性職員)

配偶者出産休暇 妻の出産や入退院時の付き添い等のために2日以内で取得

育児参加のための休暇 生まれた子や上の子を養育するために5日以内で取得

1歳未満の子どもを養育する場合

保育時間 1日2回それぞれ30分以内の時間で保育のための時間を取得

育休制度(全職員)

育児休業 子が3歳に達する日までの期間取得可能

小学校就学前のこどもを養育する場合

育児短時間勤務 勤務形態を選択し、短時間で勤務する

育児時間 勤務時間の始め又は終わりに、1日につき2時間以内で取得

小学校3年生までのこどもを看護等する場合

子の看護等休暇 年5日まで取得可能

内閣衛星情報センターの歴史とこれから

■衛星開発、運用、画像情報分析までを行う唯一の政府機関

内閣衛星情報センターは、平成10年(1998年)の北朝鮮によるミサイル発射を契機に、外交・防衛等の安全保障及び大規模災害等への対応等の危機管理のために必要な情報の収集を主な目的として、平成13年(2001年)に設立されました。
衛星開発から運用、画像情報分析まで行う国内唯一の政府機関として、国民の安全・安心に貢献しています。

■情報収集衛星の必要性

我が国を取り巻く国際情勢は依然として厳しく、また大規模な自然災害も続いています。外交・防衛等の安全保障や大規模災害等への対応等の危機管理のための情報収集は怠ることのできない状況です。

現在は、地球上の任意の地点を1日1回以上撮像可能な情報収集衛星4機体制を確立していますが、今後も衛星機数の増加や性能向上により情報収集能力をさらに強化していく必要があります。



光 学 衛 星



レ ー ダ 衛 星

■これからの内閣衛星情報センター

内閣衛星情報センターでは、情報収集衛星8機及びデータ中継衛星2機の10機体制構築を目指しています。
10機体制により、地球上の任意の地点を1日2回以上撮像可能になります。また、衛星との通信範囲の大幅な増加により即時性も向上し、現在よりも鮮度の高いタイムリーな画像情報を、官邸や省庁等に提供することが可能になります。
他方、10機体制の運用に耐えうる情報収集衛星システムの開発や運用業務の増加等、これらを支える内閣衛星情報センター職員の責務は今後さらに重要になります。

内閣衛星情報センターの「あゆみ」と「これから」

平成10年8月	北朝鮮弾道ミサイル「テポドン1号」が日本上空を通過
平成10年12月	情報収集衛星導入に係る閣議決定
平成13年4月	内閣衛星情報センター設立
平成15年3月	情報収集衛星初号機打上げ
平成25年4月	情報収集衛星4機体制確立
平成27年9月	加工処理画像の公開開始
令和2年11月	データ中継衛星1号機打上げ
令和6年1月	情報収集衛星光学8号機打上げ
令和6年9月	情報収集衛星レーダ8号機打上げ
令和8年度(予定)	光学時間軸多様化衛星1号機打上げ (H3ロケットにて打上げ予定)

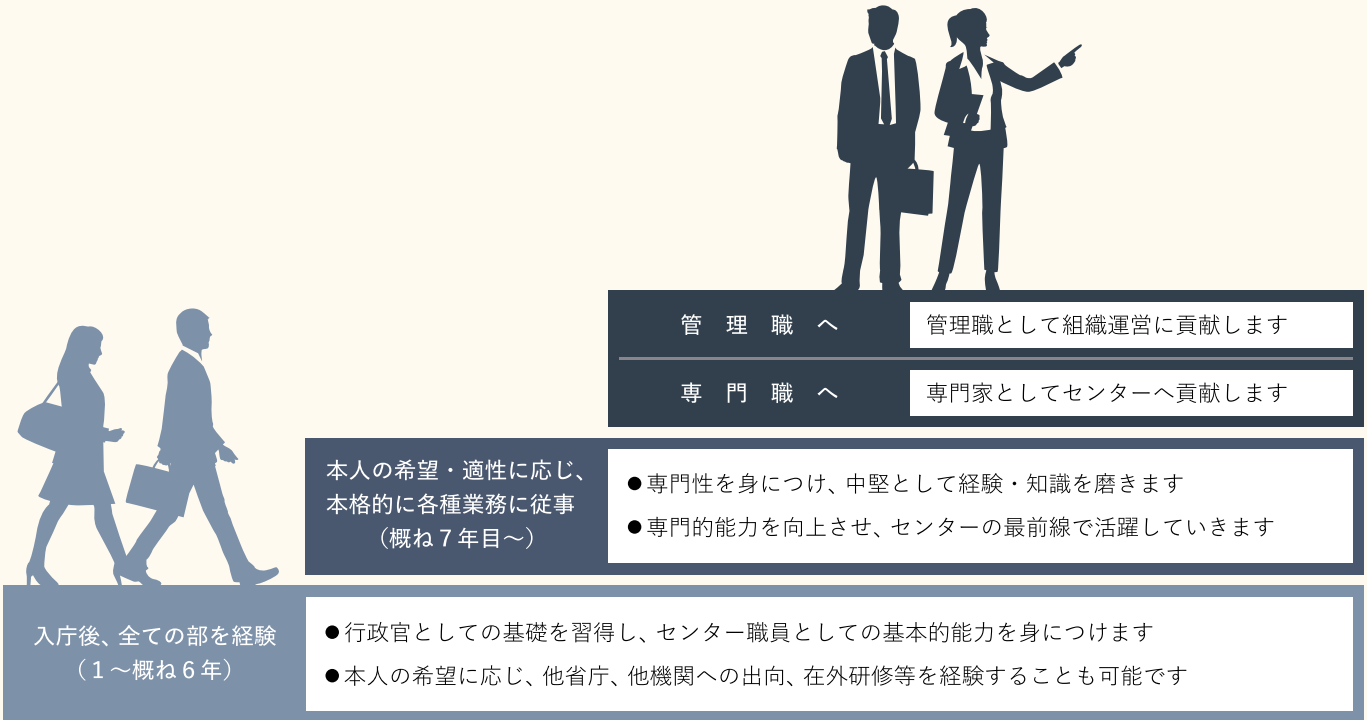
情報収集衛星レーダ8号機打上げ(令和6年9月26日)

H-II A49号機©三菱重工

キャリアパス・研修制度

内閣事務官として内閣衛星情報センターに採用後は、原則全ての部を経験するほか、本人の希望に応じて他省庁や他機関への出向など各職員が幅広い職務経験を積み重ねていきます。

各職員が、自身に合ったキャリアを積み重ね、衛星開発から運用、画像情報分析まで行う国内唯一の政府機関で、国民に対し貢献できる国家公務員として成長していきます。



各種研修制度

- 初任者研修**
採用後複数に分けて、秘密保全教育、情報機関職員として必要となる研修を行います。
- 英語研修**
英語力向上を目的とした各種英語研修を行っています。

待遇・福利厚生

- 初任給(令和８年度※)**
一般職(大卒程度試験)合格の場合
行政職(一)1級25号俸 287,600円
(地域手当、本府省業務調整手当含む)
※法令改正等により変更される場合があります。
大学院卒、社会人のある方は俸給月額が加算されます。
- 賞与(ボーナス)**
期末手当、勤勉手当として、年間4.65月分※
※法令改正等により変更される場合があります。

- 研究員派遣制度**
人事院の研修制度(行政官長期在外研究員制度)を活用して、職員のスキルアップを支援しています。
- 独自研修等**
衛星技術等の技術的知見を高めるための各種独自研修を行っています。

- 諸手当**
通勤手当、住居手当、超過勤務手当
- 休日**
年次有給休暇 20日間 (4月採用者は、その年の12月まで15日間)
特別休暇(夏季、結婚、忌引等)
- 福利厚生**
共済組合制度／グループ保険制度／診療所／定期健康診断／人間ドック(補助あり)

採用情報

採用スケジュール		採用数一覧		
令和8年5月31日	第1次試験	採用年度	採用区分	
		行政	技術(全区分)	教養
令和8年6月24日	第1次試験合格発表 官庁訪問予約受付開始	—	6名 (男性4、女性2)	—
令和8年7月上旬	官庁訪問	—	7名 (男性4、女性3)	—
令和8年7月8日～24日	第2次試験	—	3名 (男性1、女性2)	—
令和8年8月12日	最終合格発表	2名 (女性2)	5名 (男性3、女性2)	0名
令和8年10月1日	採用内定	全区分から10名程度(予定)		

※令和7年度実績を踏まえた当センターの想定スケジュールです。
最新のスケジュールは人事院の情報をご確認ください。

採用FAQ

- Q どの試験区分を採用しているのですか？**
試験区分について制限はありません。「行政区分」「教養区分」「技術系全区分」から採用します。様々な知識・経験を持った職員を求めています。
- Q 総合職の採用はありますか？**
一般職のみの採用となっています。
- Q 内閣衛星情報センター以外の勤務はありますか？**
現在は、内閣情報調査室での勤務や、一部省庁への出向があります。また、衛星開発関連機関との間で人事交流を実施しています。
- Q 採用された場合、勤務場所はどこになるのでしょうか？**
内閣衛星情報センターには地方組織として副センター、北・南受信管制局がありますが、職員の90％以上は東京の中央センターで働いており、東京勤務の期間が多くなります。
- Q 宇宙や人工衛星等の知識は必要でしょうか？**
採用時点で宇宙や衛星の専門的な知識は必須ではありません。採用後の研修や業務を通じて様々な知識や技術を身に付けようとする熱意ある方は大歓迎です！
- Q 採用後はどのようなキャリアパスになるのですか？**
内閣事務官として内閣衛星情報センターに採用後は、原則全ての部を経験するほか、本人の希望に応じて他省庁や他機関への出向など各職員が幅広い職務経験を積み重ねていきます。前ページのキャリアパスをご覧ください。

採用担当から皆さんへ

内閣衛星情報センターに関心を持っていただき、ありがとうございます！
当センターは、内閣官房職員を直接採用している数少ない政府機関です。
「内閣衛星情報センター」という名称をあまり耳にする機会は少ないかもしれませんが、日本独自の情報収集衛星を開発・運用し、日々画像情報を作成するなど、近年画像情報の重要性が増す中で活躍する機会が増えています。
現在は多様な商用衛星画像の利用も増えており、毎日のように衛星画像を使った災害や紛争等のニュースを目にする機会が増えております。そうした中、独自の衛星を持つ当センターの役割は今後一層期待されるところです。
当センターは、令和8年度から行政系職員の採用も再開する等、多様な人材を採用しており、実際に採用した立場から申しますと、技術に詳しい人、詳しくない人、宇宙に興味のある人、ない人、文系、理系、大学で全く違う分野の研究(食物科学研究、骨格研究等)をしていた人等バックグラウンドは人それぞれですが、皆さん当センター職員として大活躍しております。
就活において、当センターと出会ったことは何かのご縁ですので、日本の画像情報機関にご自身のこれからを託すということも選択肢の一つに加えていただければ幸いです。